世界遺産のまちづくりへ意識高め

富士宮商議所 サービス・観光、商業両部会

センター概要などに理解深め

富士宮商工会議所サービス・観光部会（土屋忠男部会長）と商業部会（望月功部会長）の合同企画「世界遺産のまちづくり意見交換会」が19日、富士宮市錦町のパテオンで会員事業所の関係者約90人が参加して開かれた。県と市の職員が同センターの概要やまちづくり基本構想の進ちょく状況について講話し、これを受けて参加者が意見を交換した。

富士山および構成資産が世界文化遺産に登録されて4周年を迎え、駅前やまちなかに宿泊施設が進出し、12月には県による同センターのオープンを控えているほか、旧高島家跡地（現富士宮花と食の元気広場）の商業スペースについても建設業者が決まるなど、ここ3年間、目に見える形でまちづくりが進んでいる。こうしたことから、他市の事例を交えながら世界遺産のまちづくりについて知り、新たな将来の方向性を考える契機となるよう実施した。

土屋部会長は「12月に世界遺産センターがオープンすることから市内外の関心度が高まっており、この動きが交流人口増に結び付くよう期待している」とあいさつした。

世界遺産のまちづくりについて意見交換する参加者

文化・観光部文化局仮称世界遺産センター整備課の落合徹課長は、12月23日に開館を予定している同センターの特徴や運営、利用方法について説明した。

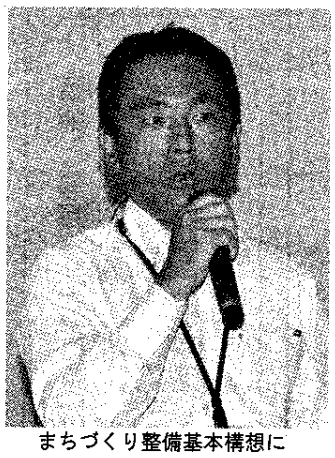
同センターは▽富士山の普遍的価値を次世代に継承するための拠点▽富士山と構成資産の関連性を体系的に分かりやすく展示▽観光・学術・芸術など富士山を通じた交流機会を創る▽富士山の調査研究活動を進め、学術的知見を深める▽諸活動の成果を連ねることで「富士山学」として体系化する―が基本コンセプト。敷地面積7000平方㍍、延べ床面積3400平方㍍。鉄骨造り地上5階建て。

センター中央の展示棟は、富士ヒノキ製の木格子で覆われた特徴的な逆円すい形の建物で、内部はらせん状の総延長200㍍のスロープになっており、壁面に投影される四季折々の映像を楽しみながら富士登山を擬似体験できる。5階の最上階では真正面に富士山の景観を望める。

各階は▽荒ぶる山（宇宙からの視点や地球の歴史の中で、どのように現在の富士山が形成されたかを解説）▽聖なる山（富士山の御祭神や富士講などの信仰を歴史軸に沿って紹介）▽受け継ぐ山（富士山を守り、後世に引き継ぐための情報を提供）▽育む山（静岡県側の特色である駿河湾から富士山という日本一の高低差を表現）▽美しき山（富士の山容が芸術作品に与えた影響、古今の絵画や詩歌、伝統芸能をタッチパネルで紹介―の展示フロアに分かれ、富士山のさまざまな側面を映像や模型を使ってPRする。

世界遺産センターの概要を話す落合さん

センター北棟は4K画質の映像を265インチの大画面で映し出す映像シアターとボランティア室。エントランスでは富士山のあらましを広く紹介するガイダンス展示、富士山グッズを取りそろえたミュージアムショップの設置を予定している。


まちづくり整備基本構想について話す二又川さん

講話受け参加者が意見交換

センター西棟では国宝や重要文化財の展示・保存が可能な公開承認施設を目指し、専用空調を設置した収蔵庫と企画展示室を整備。年4回の企画展を開催する。

屋外では、広さ2300平方㍍の水盤に逆さ富士を形取った構造物を映し出す。

落合課長は「工事が順調ならば7月末に建物建設が完了し、8月4日に県へ引き渡し、9月に県の事務所をセンター内に設置して職員が引っ越し。外構や内部展示の工事を10月末までに完成させる」との流れを説明。国内外からの誘客を年間30万人見込み、そのうち4割が県外で、メーンは首都圏や中京、関西方面。教育旅行や日帰りバスツアーでの来訪を見込むとした。

同市企画部富士山世界遺産課企画係の二又川直之係長は「富士宮市世界遺産のまちづくり整備基本構想」について▽富士山本宮浅間大社を中心とした信仰の地にふさわしい空間の創出▽門前町としてのおもむきを生かしたにぎわいの創出▽地域固有の資源を生かした新たな魅力の創出―をコンセプトに挙げ、参加者たちは「富士山信仰の歴史・文化が香るにぎわいとおもてなしのまちづくり」をテーマに活発に意見を交わした。

「近江商人ゆかりの会」会員と座談会

〝三方よし〟などの精神挙げ

商売の心構え学び

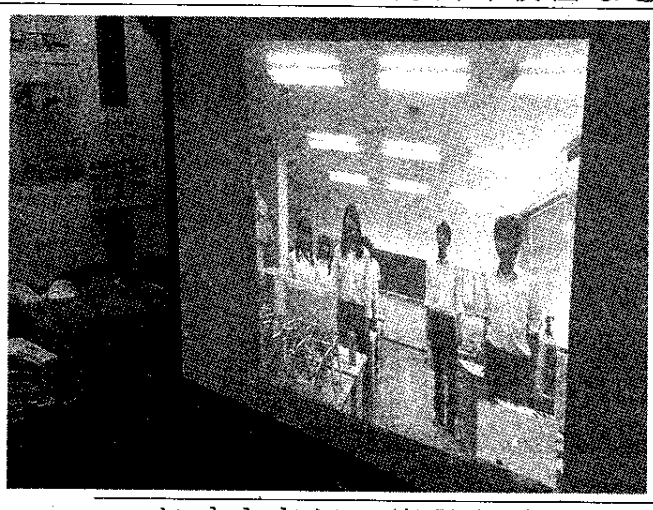
近江八幡商高生徒も参加　富士宮高校会議所

富士宮高校会議所（中村真緒会頭）の第3回定例会がこのほど、富士宮市西町の西町レトロ館で開かれ、「近江商人ゆかりの会」会員と座談会を展開した。今回はインターネットを通じて滋賀県立近江八幡商業高校の生徒も参加し、同会議所メンバーと意見交換した。

高校会議所メンバーを前に話す吉澤さん（左）

夫婦都市提携を結ぶ富士宮市と近江八幡市はさまざまな交流を行っているが、同高校では「近江商人再生プロジェクト」と題し富士宮市などで行商体験を行い、高校生が学びながら市民との交流を図っている。富士宮高校会議所のメンバーも昨年からこの活動に参画しており、今年は7月の実施を前に商業について同校生徒と共に学ぼうと、同会の平居匡儀代表、会員の中村一雄さん、吉澤利一さんとの座談会を設けた。

座談会では、平居さん、中村さん、吉澤さんがそれぞれ、地元の近江商人に関連して取り組んできた手法などを紹介。特産品を全国で行商し、「売り手良し、買い手良し、世間良し」の「三方良し（自分のことよりも客のことを考え、みんなのことを大切にして商売をすべき）」の精神で活動していたこと、「先義後利栄」の考えの重要性、近江商人と富士宮市の繁栄が密接に関係していることなどを語った。また、両市でそれぞれの目的を持って商品開発、販売などに携わっている高校生たちに期待の声を寄せた。


インターネットを通じて近江八幡商業高校の生徒も座談会に参加

インターネットを通して参加していた近江八幡商業高校の生徒は、富士宮市の高校生と意見交換。今年も7月26、27の両日、富士宮市で同プロジェクトの活動を展開する予定になっており、生徒たちは「共に活動することを楽しみにしています」などと語り合っていた。

誕生おめでとう

（16～19日）

◇富士宮市
森山あかり（兼太さん）北山

◇富士市
マツザキ・アンジェラ・アイリ（ルシアナ・ユミさん）厚原
後藤創太（隆文さん）江尾
松山想介（孝弘さん）元町
牧野花海（隆宏さん）高嶺町
原奈央（央佳さん）本市場町
遠藤夏央（慎也さん）中丸
高木珠琉（直哉さん）岩本
岩田百叶（尚也さん）伝法